



## 待ちわびた春の訪れ

待ちに待った春の到来ですね。今年の冬は例年に比べて暖冬だったとはいえ、寒さが苦手な私には本当に三月は待ち遠しく感じられました。陽射しがやわらかくなると出無精の私でもつい出かけたくなります。五月にはいよいよ「秋田犬の里」がオープンですね。今から楽しみです。

### ❁映画の原作本

☆五月公開予定で『長いお別れ』中島京子著があります。認知症を患った父と過ごした10年の日々を妻と三人の娘たちの視点で描いた作品です。かつて中学の校長だった東昇平は、ある時は遊園地で迷子になり、入れ歯は次々に消えたり。ときにユーモラスな事態を起こしながら病気は少しずつ進んでいく。介護の困難さやそれぞれの思い、予測不能なアクシデントの数々。しみじみと切ないシリアスなテーマながら、笑いと涙がある温かな家族の物語です。認知症を患う父に山崎努、次女蒼井優、長女竹内結子、母松原智恵子がキャスティングされています。

☆昨年公開された『終わった人』内館牧子著は、元エリートサラリーマンが子会社に出向、転籍しそのまま定年を迎えます。仕事一筋だった主人公は暇を持って余し、妻は夫との旅行など乗り気ではない。どんな仕事でもいいから働きたいと職探しをしても、高学歴や立派な職歴がかえって邪魔をしてうまくいかない。定年後に自分の生きがい、居場所を探して惑いあがき続けていく物語です。

映画では館ひろし、黒木瞳主演で大ヒットしました。小説を読んでいると自分なりのイメージがあり実際に映像化された時のキャスティングとイメージが違ったりすると抵抗があり見るのも躊躇してしまう人もいるのではないかと思います。私もその一人なのですが、あるドラマを見てから考えが変わりました。自分の思い描いていたものと違うと突っ込みどころが満載で又原作に忠実に描かれているかなどと比べたりと非常に楽しく見ることができました。逆に映像を見てから本を読むとすぐにイメージできるので読みやすかったりもします。

小説やマンガが原作で、数々の映画・ドラマ化がされますが、映画は映画、小説は小説で比べるものではないという方もいらっしゃると思いますが、それぞれの思いで見てもいいのではないのでしょうか。これから映像化される本や、過去に映画、ドラマを見た作品でも今一度原作を読んで比べてみるのもおすすめです。

### ❁一期一会

とても好きな言葉です。年を重ねるごとに感じるようになりました。元々は千利

休が説いた茶の湯の心得にあると言われ、弟子宗二の「山上宗二記」にある「一期に一度の会」から茶の湯で、茶会は毎回、一生に一度だという思いを込めて、主客とも誠心誠意真剣に行うべきことを説いた語。転じて一生に一度しかない出会い。一生にいちどかぎりであること。（小学館『大辞泉』）とあります。

一生に一度きりの出会いはもちろんですが、日々幾度となく出会っている人であっても、その瞬間は一期一会であるということは感慨深いものがあります。

三月は卒業シーズンです。数多くの別れがありますが、でもまた必ず出会いがあります。人との出会い、本との出会い、様々な出会いを私自身大切にしていきたいと思えますし、若い人たちにも大切にしてほしいと思えます。図書館を利用される方々には貴重な一冊と出会えるよう、そして何度でも利用して頂けるように図書館も魅力ある企画を考えています。是非図書館をご利用ください。（比内：久）